

平成30年度課題別人権教育研修講座A

人権教育推進上の様々な課題について、その解決の方策を検討することを通じて、人権教育推進のための資質向上を図ることを目的として、実施しました。

- 1 日時及び会場 平成30年7月26日(木) 13:00~16:00 かしはら万葉ホール
- 2 参加者 県内小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校等の人権教育推進担当教員等 <<135名>>
- 3 日程及び内容
13:00 開会行事
13:10 説明「人権教育の推進について」
14:10 講演「奈良県における『こども食堂』の取組から」

<内容(概要)>

(1) 説明「人権教育の推進について」 奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課 指導主事

人権教育を推進する上で、「基盤となる人権意識の確立」と「様々な人権侵害、差別問題の克服」といった課題に対して、「普遍的な視点からのアプローチ」と「個別的な視点からのアプローチ」との相まった取組が求められる。このような取組を通じて目指していることは、「人権が尊重されている社会を築こうとする人間の育成」であり、そのためには教育の場においてすべての関係者の人権が尊重されていることが重要である。「自己実現の視点」「共生の視点」「人間関係づくりの視点」という3つの視点に照らし、教育活動全体を通じて「教育を受ける権利の保障を通して」「人権についての理解を深める教育として」「人権を尊重する主体を育てる教育として」「人権が尊重される教育として」という4つの側面から取組を進めていただきたい。学校教育における人権教育推進上の今日的課題に対しては、「人権教育の基盤となる自尊感情の醸成と集団づくり」「教職員の人権に関する知的理解の深化と人権感覚の醸成」「各教科等における人権教育の取組の充実」といった取組を進めていただきたい。

(2) 講演「奈良県における『こども食堂』の取組から」 大和八木こども食堂 代表 杉井祐介



県内のこども食堂は3~4年前から増え始め、「奈良こども食堂ネットワーク」では、ネットワーク会員として34団体が活動を行っている。こども食堂には、利用者個人の支援を中心とした「ケア型」や、つながりを大切にし、誰でも参加できる「コミュニティ型」などがあるが、決まった形があるわけではなく、いろいろなアプローチが可能である。

自分が生まれ育った町のこどもたちが安心して暮らせるようにと、「こども食堂を通して、こどもたちと地域社会との『つながり』を深め、こどもたちが『笑顔』で安心して暮らせる『地域づくり』に貢献する」という理念のもと、「大和八木こども食堂」を始めた。「続けること」を大切に、2016年4月から、毎月1回開催している。誰でも気軽に来て、楽しく過ごせる場所となるよう、スタッフも楽しく参加している。

社会にある孤立や貧困といった「しんどさ」は「つながり」の希薄さから生まれるのではないかと。「つながり」によって、少しでも気持ちを和らげ、「誰も一人ではない」と思える場をつくることで、支援を必要とする人を救うことができるのではないかと考えている。学校、行政、家庭と地域(こども食堂は地域づくりの一端を担うことができる)が連携し、お互いさまで助け合うようにしたい。

<参加者の感想から>

- ・理念が素晴らしいと思った。学校も協力し、ともに地域づくりができたらと感じた。
- ・学校は子どもが集まってくる所であるので、場所の提供などの支援もできるのではないかと考えた。
- ・このような取組をされていることを知り嬉しくなった。私も地域に貢献したいと思った。
- ・身の回りの問題をそのままにせず、前進されている姿からエネルギーをいただいた。
- ・保護者も子どもも、人とつながる楽しさや喜びを感じる機会になれば嬉しく思う。
- ・まずやってみようとする力のあるスタッフがおられることが素晴らしい。
- ・地域住民、子ども、高齢者の方々が集う場となり、安心できる居場所となっていると感じた。
- ・「つながり」を提供できる場としても、「こども食堂」の存在意義があるのだと分かった。